

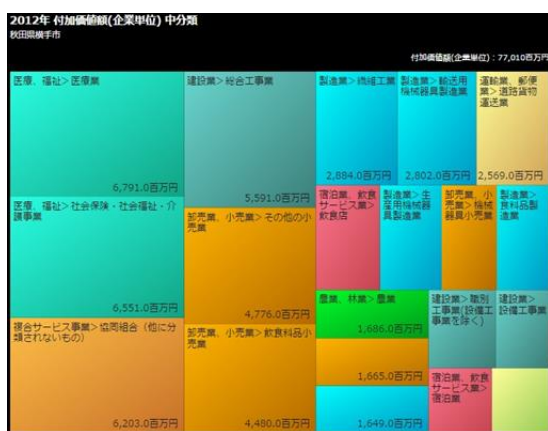
## 第5章 地域連携の提言

### 1 横手市と由利本荘市の連携による輸送機産業の振興

#### (1) 横手市の自動車関連産業の状況

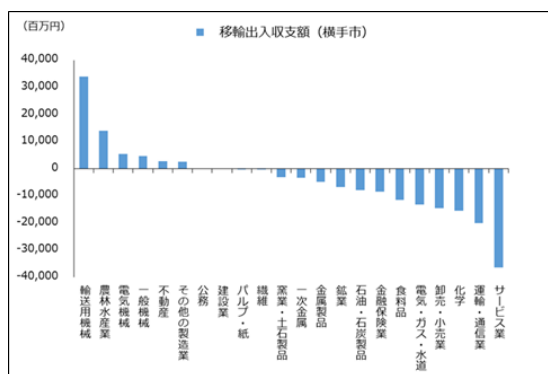
横手市に関する産業ごとの付加価値額では、輸送用機械器具製造業が8番目に大きい。また移輸出入収支額については、輸送用機械が最もプラスが大きく域外から外貨を稼ぐ産業となっている。これは横手市に自動車部品関連の生産拠点が集積していることによる。

【図表159】全産業の付加価値額（再掲）



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額」

移輸出入収支額（再掲）



「地域経済循環マップ／生産分析」を用いて作成

#### (2) 横手市の産業振興に関する政策

第2次横手市総合計画（2016年～2025年）では、産業振興のうち工業の振興に係る政策に関して、「市の製造業を牽引する輸送用機械器具製造業や地理的条件がハンデとならないIT、ソフトウェア関連産業の振興のための支援に取り組みます。」と掲げている。

このことから、「輸送用機械器具製造業の振興」が横手市の産業振興政策の一つの柱となっていることが分かる。

### (3) 由利本荘市の製造業の状況

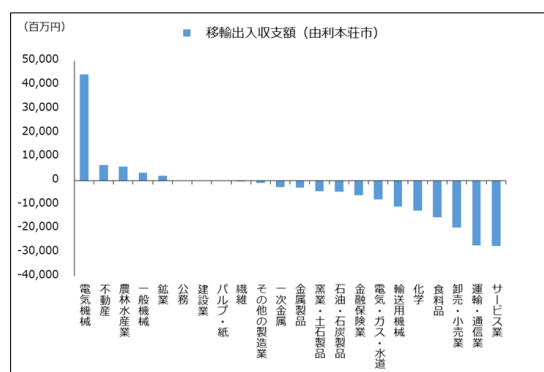
由利本荘市に関する産業ごとの付加価値額では、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、「電気機械器具製造業」が1、3番目に大きく、合計で全体の2割強を占める。また、移輸出入収支額では、「電気機械」が突出して大きくプラスの大部分を占める。さらに、電気関係に限らず「一般機械」、「繊維工業」など幅広い分野の製造業が付加価値を生み出している。

このように電子部品を中心とする製造業が由利本荘市の主力産業であるが、一方で、電子部品の市況に地域経済が左右されやすいという弱みにもつながっている。

【図表160】全産業の付加価値額（再掲）



移輸出入収支額（再掲）



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額」

「地域経済循環マップ／生産分析」を用いて作成

### (4) 由利本荘市の輸送機関連産業振興に関する政策

由利本荘市総合戦略（平成27年11月策定）では、「基本目標1 産業集積の強靱化と雇用創出」における具体的な施策として「既存の電子部品・デバイス産業の集積に加え、航空機・自動車等の輸送機関連産業に進出する地域企業を戦略的に支援し、相乗の産業効果を生み出す取り組みを実践する」としている。

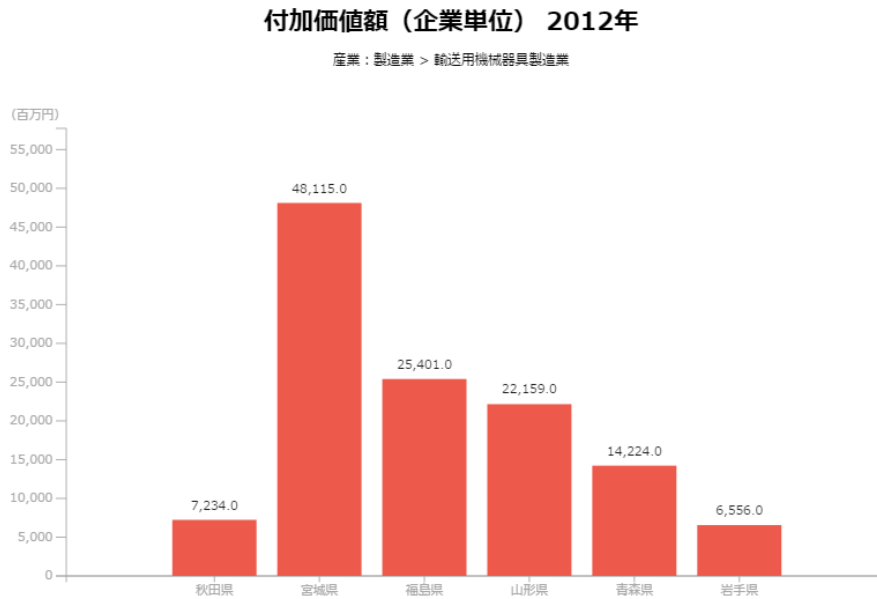
このことから、由利本荘市は電子部品・デバイスに加える製造業の柱として輸送機関連産業の振興を図っている。

### (5) 秋田県の輸送機産業振興の取組

秋田県の第2期ふるさと秋田元気創造プランでは、産業・エネルギー戦略の方向性として「自動車関連産業と航空機関連産業の振興」を掲げ、「自動車関連産業への参入の促進」と「航空機関連産業への参入の促進」を行うこととしている。

輸送用機械器具製造業の付加価値額では、本県は東北各県の中で下位にあり、今後の振興の余地は大きいと考えられる。

【図表 1 6 1】 輸送用機械器具製造業の付加価値額、東北 6 県



「産業構造マップ／付加価値額（企業単位）／製造業・輸送用機械器具製造業／グラフを表示」

(6) 横手市と由利本荘市の連携による輸送機産業振興の可能性

秋田県において、上記(5)のような輸送機産業の振興を行おうとする場合、地域として最も関連が深いのは横手市と由利本荘市と考えられる。

産業の現状では、横手市には自動車部品の関連産業が集積し、由利本荘市には電気部品や一般機械などの製造業が集積している。また、政策面では、両市とも総合計画や総合戦略で輸送機関連産業の振興を掲げている。さらに、両市は地理的に隣接し、国道 107 号線及び秋田自動車道・日本海東北自動車道で連絡している。

したがって、両市の輸送機関連産業が連携し相乗効果を生み出せば「自動車関連産業と航空機関連産業の振興」を効果的に進めることが可能となると考えられる。

(7) 横手市と由利本荘市の輸送機関連産業連携のための取組

上記のように横手市と由利本荘市の輸送機関連産業を連携させるために必要なこととして、次のような取組が考えられる。

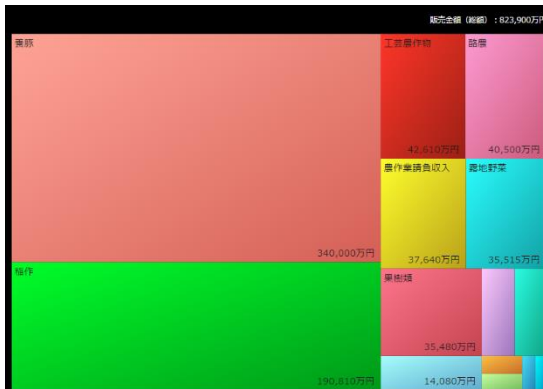
- ・ 秋田県立大学本荘キャンパス（工学系学部）を活用した技術・開発力の向上
- ・ 輸送機関連産業に係る企業相互の取引関係の構築
- ・ 既存企業の機能を補完する企業や生産拠点の誘致、起業促進
- ・ 共同で行う輸送機関連産業に係る人材の育成
- ・ 企業連携による部品単体の製造からモジュール製造への生産の高度化

## 2 鹿角市、大館市、小坂町の連携による食品産業の振興

### (1) 鹿角市の農業・食料品製造業の状況

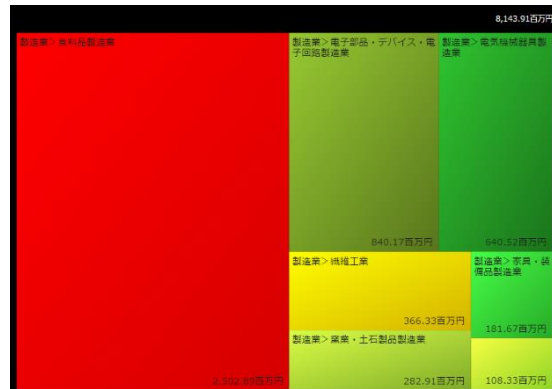
鹿角市に関して、農業の販売金額を見ると、最も多い「養豚」が全体の4割強を占め、「果樹類」が7番目に多いという特徴がある。また、製造業の付加価値額では、「食料品製造業」が全体の約3割を占める。

【図表162】農産物販売金額（再掲）



「産業構造マップ／農業の構造」

製造業の付加価値額（再掲）



「産業構造マップ／製造業の構造／付加価値額で表示」

### (2) 大館市の農業・食料品製造業の状況

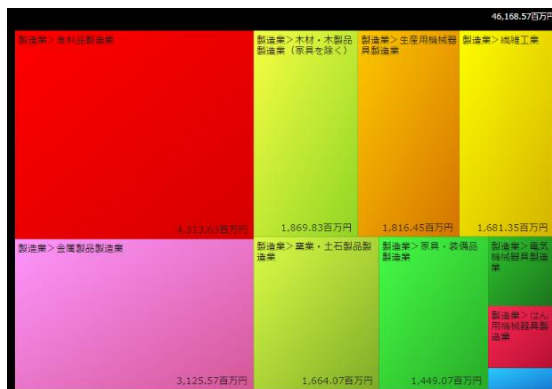
農業の販売金額を見ると、稲作は全体の約4割にとどまり、養鶏が全体の2割強を占める。これは比内地鶏を特産とする本市農業の特徴である。また、製造業の付加価値額では、「食料品製造業」が最大で全体の1割弱を占める。

【図表163】農産物販売金額（再掲）



「産業構造マップ／農業の構造」

製造業の付加価値額

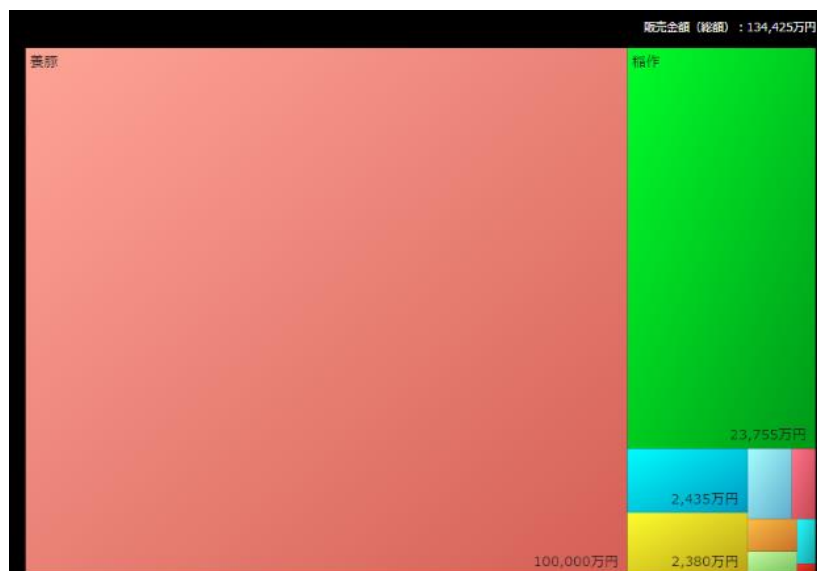


「産業構造マップ／製造業の構造／付加価値額で表示」

### (3) 小坂町の農業・食料品製造業の状況

小坂町に関して、農業の販売金額では「養豚」が全体の約74%を占め、「稲作」を大きく上回ることが際立った特徴である。

【図表164】農産物販売金額（再掲）



「産業構造マップ／農業の構造」

### (4) 鹿角市、大館市、小坂町の連携による食料品製造業の振興

以上で見たように、隣接する鹿角市、大館市、小坂町は農業において共通する特徴を持っている。すなわち、鹿角市と小坂町は全体の販売金額に占める「養豚」の割合が大きく、大館市は「養鶏」の割合が大きいことにより、県内の他の自治体に比べ畜産業が発達している。これは、この3自治体がポークや比内地鶏という農産品を持っている強みとなっている。

また、鹿角市と大館市は製造業の付加価値額に占める食料品製造業の割合が大きい。

このように隣接する県北の3自治体は畜産業が発達しているという共通の特性を持っていることから、この3自治体が連携することにより、畜産加工品を製造する食料品製造業の振興を効果的に推進することが可能になると考えられる。

そのために必要なこととして、次のような取組が考えられる。

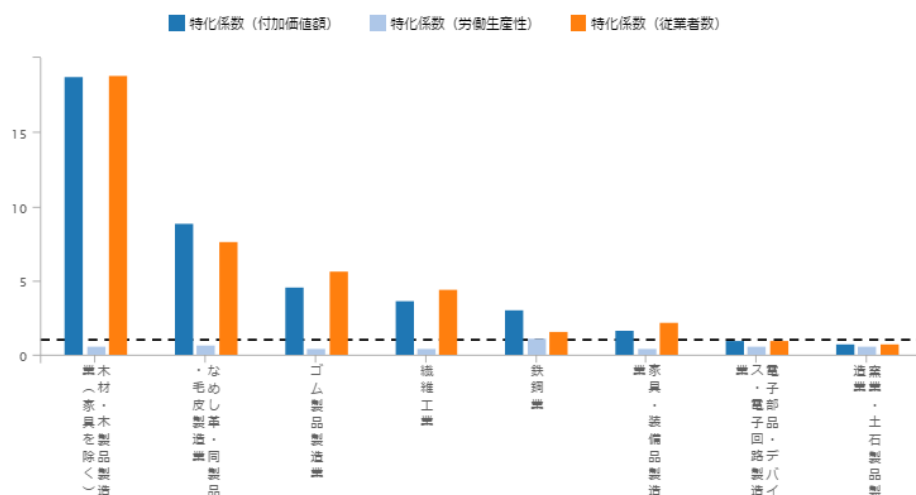
- ・ 食肉加工技術の共同研究
- ・ 上記による製品の高付加価値化
- ・ 食肉加工品の共通ブランド構築
- ・ 共同のネット通販サイト設置など共同でのマーケティング展開

### 3 能代市、三種町、五城目町、藤里町、上小阿仁村の連携による木材産業の振興

#### (1) 能代市の木材産業の状況

能代市に関する特化係数では、「木材・木製品製造業（家具を除く）」の付加価値額と従業者数の特化係数が大きい。一方、労働生産性は1を下回る。

【図表 1 6 5】特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）（再掲）

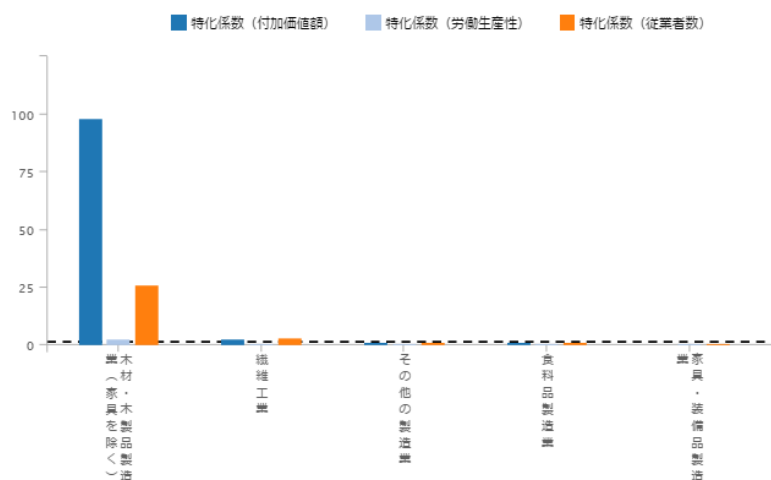


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／特化係数（付加価値額順）で見る」

#### (2) 三種町の木材産業の状況

三種町に関する特化係数では、「木材・木製品製造業（家具を除く）」の付加価値額と従業者数の特化係数が非常に大きい。

【図表 1 6 6】特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）

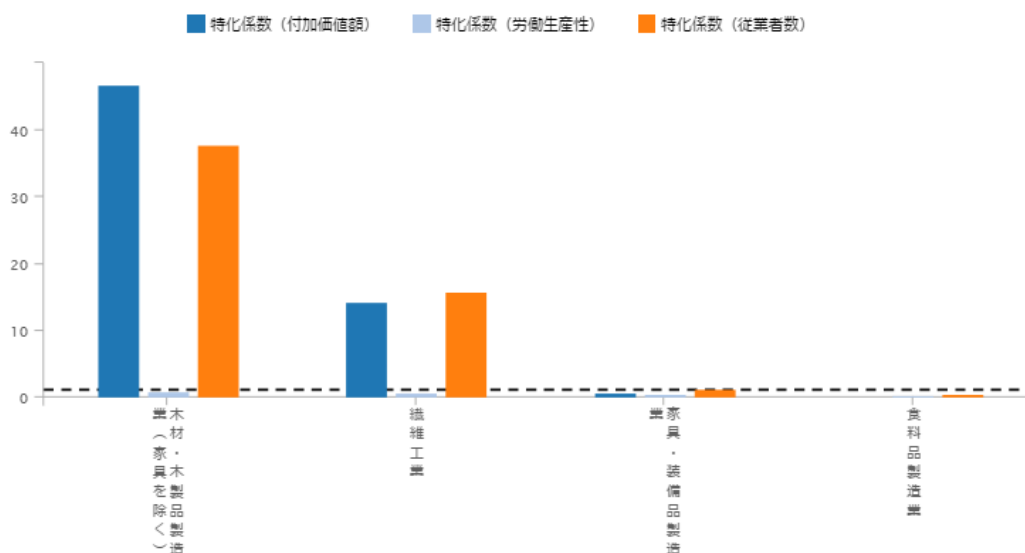


「産業構造マップ／稼ぐ力分析／特化係数（付加価値額順）で見る」

### (3) 五城目町の木材産業の状況

五城目町の付加価値額と従業者数の特化係数を見ると、「木材・木製品製造業（家具を除く）」は特化係数が30～40台と非常に大きいことが特徴である。

【図表167】特化係数（付加価値額、労働生産性、従業者数）（再掲）



「産業構造マップ／稼ぐ力分析／特化係数（付加価値額順）で見る」

### (4) 能代市、三種町、五城目町、藤里町、上小阿仁村の連携による木材産業の振興

以上で見たように隣接する能代市、三種町、五城目町は「木材・木製品製造業（家具を除く）」の付加価値額、従業者数の特化係数が大きいという共通の特徴を持っている。また、地理的に近い藤里町、上小阿仁村は、従業者数などの面で「林業」のウェイトが比較的高い自治体である。

したがって、能代市、三種町、五城目町の木材産業が連携して、藤里町や上小阿仁村の林産資源を活用し木材・木製品として高付加価値化することができれば、地域産業の振興という観点から相乗効果を発揮できると考えられる。

そのために必要なこととして、次のような取組が考えられる。

- ・ 秋田県立大学木材高度加工研究所を活用した技術力向上、高付加価値化の取組
- ・ 藤里町、上小阿仁村における林業の振興
- ・ 共同での木材産業に係る人材の育成
- ・ CLT（直交集成材）活用に関する共同研究
- ・ 中、大規模木造建築に関する共同研究、実証実験
- ・ 木材産業に関連する企業、生産拠点の誘致

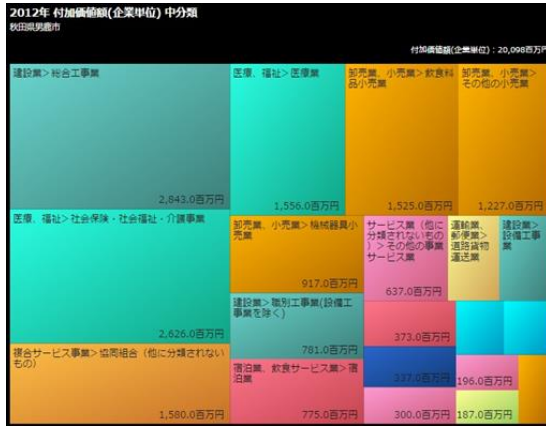
#### 4 男鹿市と大潟村の連携による食料品製造業、観光の振興

##### (1) 男鹿市の産業の状況

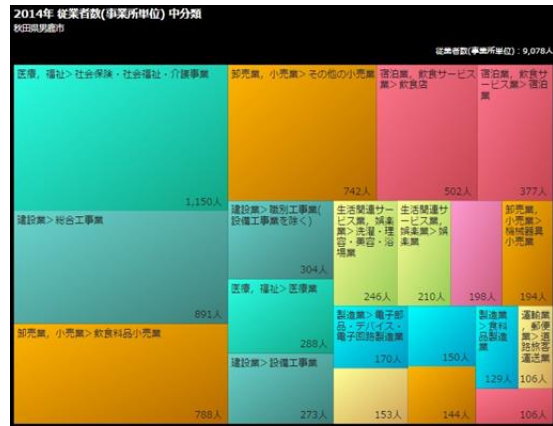
付加価値額で「宿泊業」が9番目に大きく、従業者数では、「飲食店」、「宿泊業」が5、6番目に多い。このように、産業の中で宿泊、飲食が占めるウェイトが高いのは、男鹿半島や温泉郷などの観光地を有する本市の特徴と考えられる。

また、第1次産業に関しては、海面漁獲物販売金額（総額）で本市は県内市町村中で最も大きいという強みがある。ただし、食料品製造業の付加価値は産業中の上位にはなく、海面漁獲物（水産物）の加工による高付加価値化の余地が大きいと考えられる。

【図表168】付加価値額（再掲）

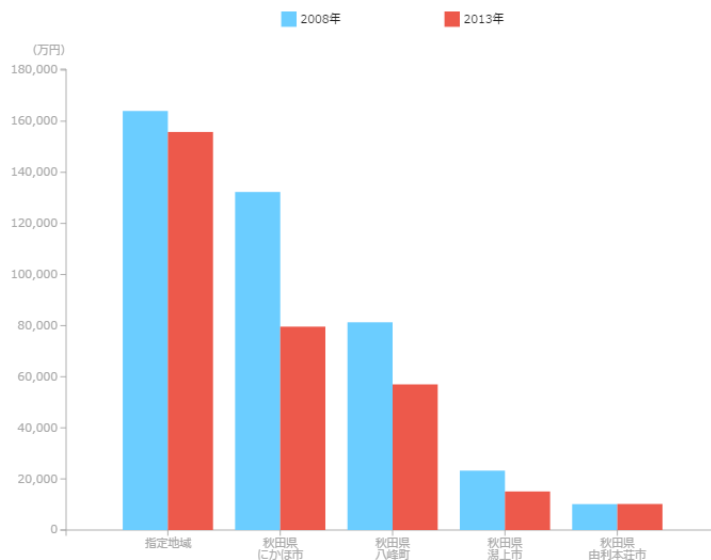


従業者数（再掲）



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

【図表169】海面漁獲物販売金額（再掲）



「産業構造マップ／海面漁獲物等販売金額／グラフを表示」

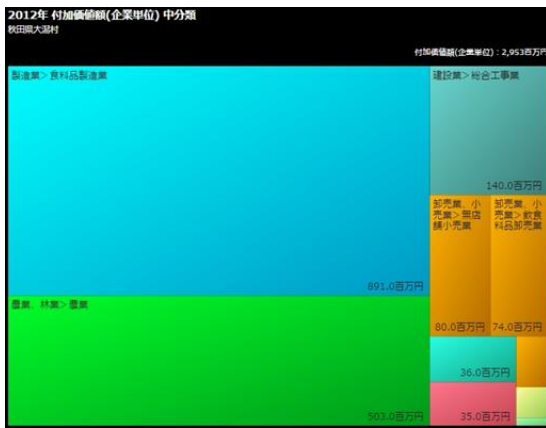


(2) 大潟村の産業の状況

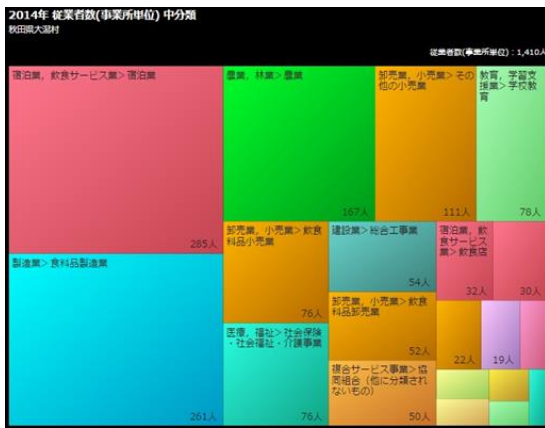
「食料品製造業」と「農業」は、付加価値額で1、2番目に大きく、従業者数では2、3番目に大きい。また、移輸出入収支額でもこの2産業が外貨を稼ぐ産業となっていることが分かる。このように農業と農産物を活用した食料品製造業が本村の主力産業となっている。

また、従業者数では「宿泊業」が最多となっていることが他の市町村に見られない本村の特徴となっている。

【図表170】付加価値額（再掲）

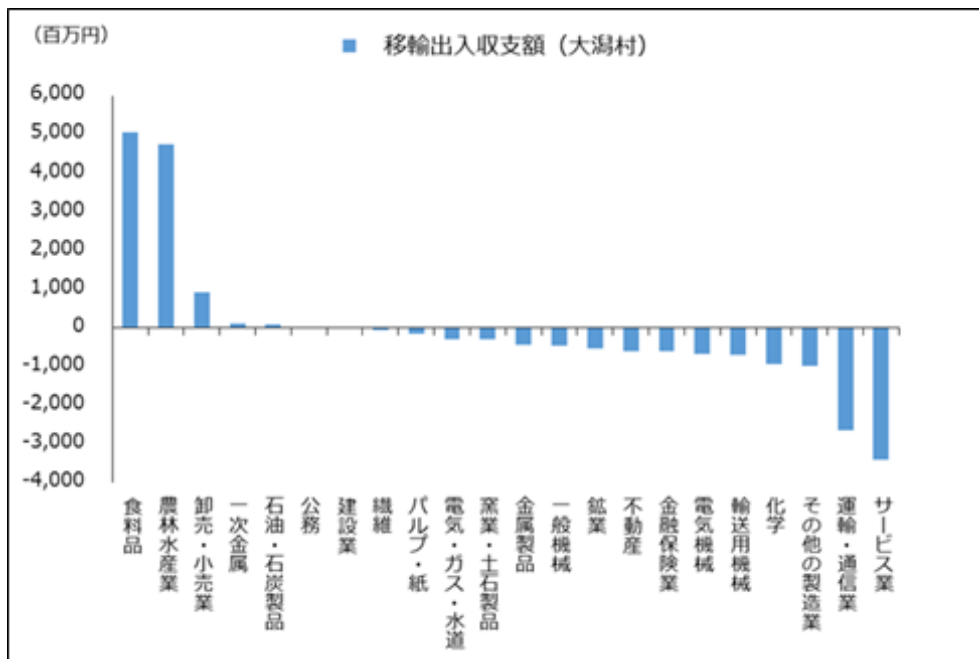


従業者数（再掲）



「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額（企業単位）・従業者数（事業所単位）／中分類で見る」

【図表171】移輸出入収支（再掲）



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

### (3) 男鹿市と大潟村の連携による食料品製造業・観光の振興

以上で見たように、隣接する男鹿市と大潟村は、第1次産業の面で水産物と農産物という強みのある産品を有しており、大潟村では、食料品製造業が主力産業となっている。また、男鹿市と大潟村は「宿泊業」が従業者数でウェイトが大きく地域の雇用確保に貢献する産業となっている。

したがって、この2自治体が連携することにより、まず食料品製造業の分野で相乗効果を発揮することが可能と考えられる。水産物と農産物という互いの強みを組み合わせることにより、それを加工した食料品のバラエティに幅を持たせることができる。また、大潟村が強みとする無店舗販売による販売ルートを活かし、共同でのマーケティングを行うことでPR、販売面を強化することが可能である。

次に、雇用面で「宿泊業」のウェイトが大きいこの2自治体は、観光面でも連携することの効果大きい。男鹿市と大潟村を範囲とする「男鹿半島・大潟ジオパーク」（地球の歴史を学び、楽しむことのできる「大地の公園」）が設定されており、「半島と干拓が育む人と大地の物語」をテーマに学び、楽しむ場を提供している。

したがって、このジオパークを活用し地域外からの観光誘客を図るとともに、水産物、農産物を加工した食料品のPR及び販売につなげることができれば、地域産業への効果は大きいと考えられる。

そのために必要なこととして、次のような取組が考えられる。

- ・水産物及び農産物の加工品の共同研究・開発
- ・秋田県立大学、生物資源科学部との共同研究による農産・水産加工品の開発
- ・全国の消費者に対する直接販売サイトの共同運用
- ・水産加工品、農産加工品のマーケティングにおけるコラボレーション
- ・ジオパークと男鹿市、大潟村の観光資源、宿泊施設を組み入れたツアー開発
- ・地域を訪れた観光客に水産加工品、農産加工品を販売する仕組みづくり

#### 男鹿半島・大潟ジオパーク

エリア	男鹿市・大潟村
テーマ	半島と干拓が育む人と大地の物語
特徴	約30km四方の比較的コンパクトな当ジオパークには、日本列島が大陸から分かれ、日本海を形成し、大規模気候変動による環境の移り変わりを経て今日に至った、過去7,000万年間の大地の歴史を、ほぼ連続して観察できる地層がそろっています。また、日本最大の潟湖「八郎潟」から誕生した日本最大の干拓地大潟村は、他のジオパークにはない、「大地と人の物語」に恵まれています。

※ 「男鹿半島・大潟ジオパーク公式サイト」を基に作成

## 5 大仙市、仙北市、美郷町の連携による食料品製造業、観光の振興

### (1) 大仙市の産業の状況

移輸出入収支額では、「農林水産業」が最大のプラスとなっている。農業の構造を見ると販売金額全体の中で「稲作」が7割弱を占め、次に「養豚」が大きい。

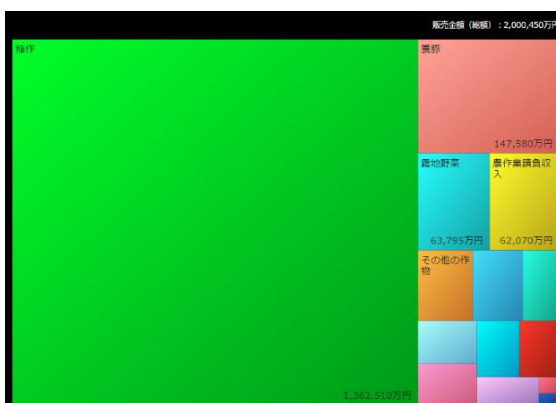
また、食料品製造業は、付加価値額では上位になく、移輸出入収支額では大きなマイナスとなっている。

【図表 1 7 2】付加価値額（再掲）



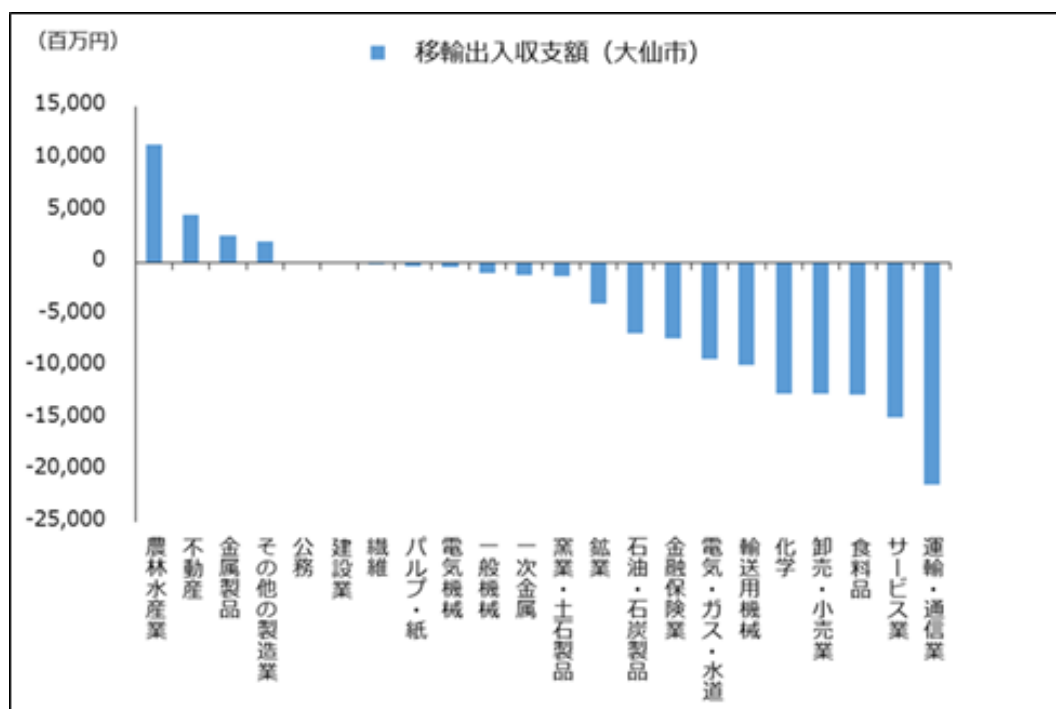
「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額」

農産物販売金額（再掲）



「産業構造マップ／農業の構造」

【図表 1 7 3】移輸出入収支（再掲）



「地域経済循環マップ／生産分析／付加価値額・移輸出入収支額」のデータを用いて作成

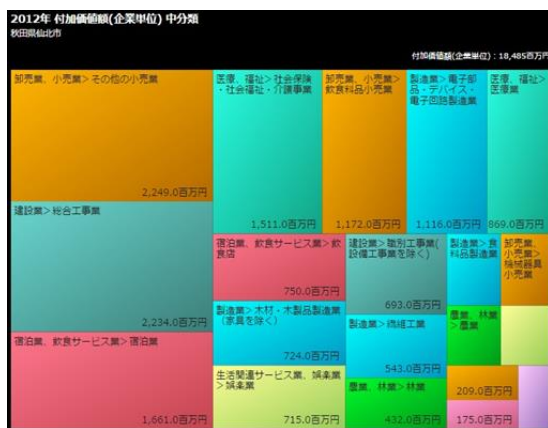
(2) 仙北市の産業の状況

移輸出入収支額では、「農林水産業」が最大のプラスとなっている。農業の構造を見ると販売金額全体の中で「稲作」が6割強を占め、次に「養鶏」が大きい。

また食料品製造業は、付加価値額では上位になく、移輸出入収支額では大きなマイナスとなっている。

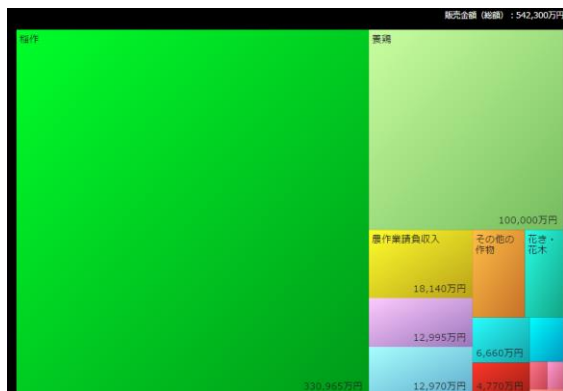
また、「宿泊業」は、付加価値額では3番目に大きく雇用面でも貢献度が大きいなど重要な産業の一つとなっている。これは武家屋敷や田沢湖、温泉郷などの観光資源を有する本市の特徴といえることができる。

【図表 174】付加価値額（再掲）



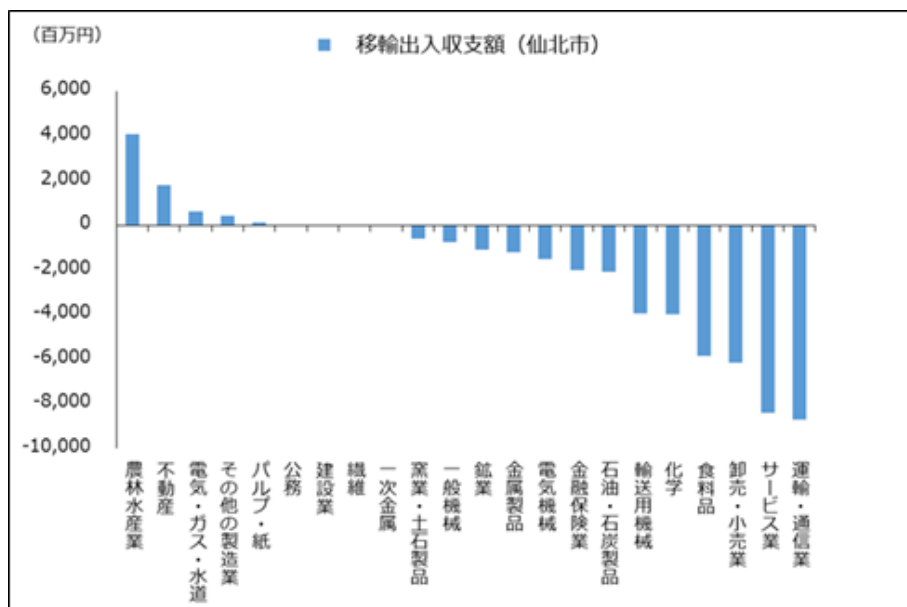
「産業構造マップ／全産業の構図／付加価値額」

農産物販売金額（再掲）



「産業構造マップ／農業の構図」

【図表 175】移輸出入収支（再掲）



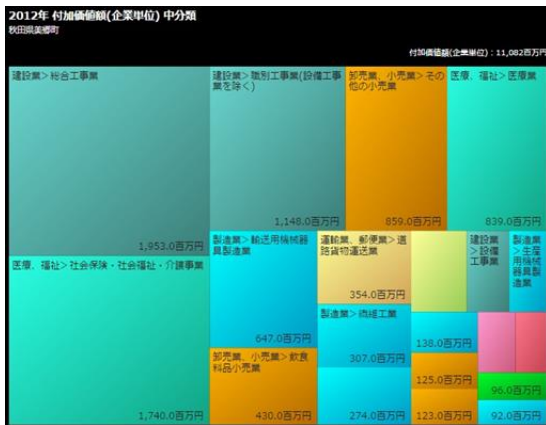
「地域経済循環マップ／生産分析／移輸出入収支額」のデータを用いて作成

### (3) 美郷町の産業の状況

移輸出入収支額では、「農林水産業」が最大のプラスとなっている。農業の構造を見ると販売金額全体の中で「稲作」が約7割を占め、続いて「酪農」、「肉用牛」といった畜産関係が大きい。

また、食品製造業は、付加価値額では上位になく、移輸出入収支額ではマイナスとなっている。

【図表 176】付加価値額（再掲）



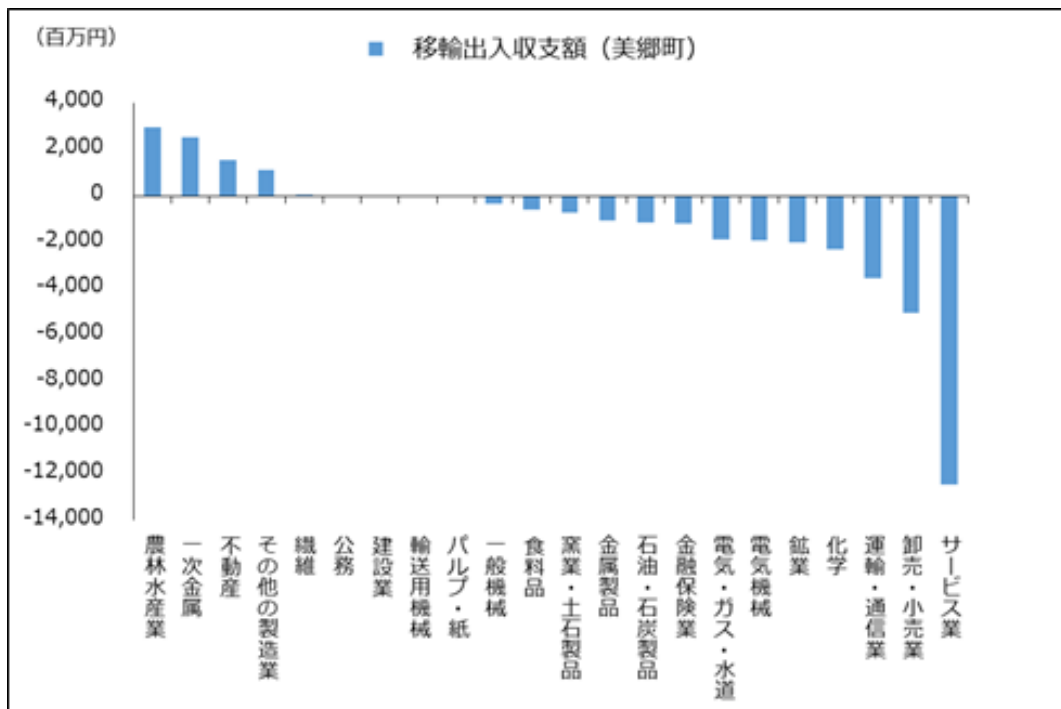
「産業構造マップ／全産業の構造／付加価値額」

農産物販売金額（再掲）



「産業構造マップ／農業の構造」

【図表 177】移輸出入収支（再掲）



「地域経済循環マップ／生産分析／移輸出入収支額」のデータを用いて作成

#### (4) 大仙市、仙北市、美郷町の連携による食料品製造業・観光の振興

以上で見たように、隣接する大仙市、仙北市、美郷町は農業及び食料品製造業に関して共通の特徴を持っている。すなわち、移輸出入収支額では農林水産業が最大のプラスであり、農業の販売金額については「稲作」が最大で全体の6～7割程度を占めている。また、食料品製造業は、付加価値額では上位の産業ではなく、移輸出入収支額ではマイナスで外貨を稼ぐ産業とはなっていない。

移輸出入収支額で農業を中心とする農林水産業が最大のプラスであることから、地域内で付加価値を高めるためには農産物を活用した食料品製造業の振興という方向性が必要と考えられるが、農業が稲作を中心としていることから農産物加工を振興するためには稲作以外の農産物生産を振興する必要がある。

上記の3自治体とも販売金額で「稲作」に続く農産物が「養豚」、「養鶏」、「肉用牛」など畜産関係であることを勘案すると、産業振興の共通の方向性として畜産業の振興とその産物を活用した食料品製造業の振興が重要と考えられる。したがって、3自治体が共同して畜産を振興し、畜産品の加工技術の研究や商品開発に取り組むことは産業振興のために有効と考えられる。

また、3自治体のうち仙北市は多くの観光資源を有し、「宿泊業」が付加価値額等において重要な産業となっている。この強みを活用して3自治体が連携して観光振興に取り組むことにより、この地域により大きな経済効果をもたらすことが可能と考えられる。

この地域では冬期に仙北市の火振りかまくら、紙風船上げ、大仙市の大綱引き、美郷町の竹打ちなどの小正月行事が盛んであり、大仙市では「大曲の花火 冬の章」というイベントも行われている。したがって「雪あかりプロジェクト」（仮称）というプロジェクトを立ち上げ、これらの行事やイベントを結び付けた観光ツアー商品開発や共同マーケティングを行うことにより地域を総体的に盛り上げ、交流人口拡大の相乗効果を創り出すことが可能と考えられる。

そのために必要なこととして、次のような取組が考えられる。

- ・ 畜産試験場（大仙市神宮寺）を活用した畜産技術の共同研究
- ・ 畜産加工品の共同開発
- ・ ネット通販サイトの共同運用など畜産加工品の共同マーケティング
- ・ 「雪あかりプロジェクト」（仮称）観光PRサイトの共同運用
- ・ 3自治体の小正月行事など観光資源、宿泊施設を組み入れたツアー開発
- ・ 地域を訪れた観光客に畜産加工品をPRし販売する仕組みづくり



# RESAS による秋田の地域経済分析報告書

平成 29 年 3 月

作成：株式会社 あきぎんリサーチ&コンサルティング

〒010-8655 秋田県秋田市山王 3 丁目 2 番 1 号

秋田銀行本店 5 階

TEL 018-863-1221 FAX 018-863-1245